

東海道五十三次道中紹介（三河・尾張路編）

工 39 市村正明

今回は第三区分の三河・尾張路を掻い摘んでご紹介します。

Ⅲ 三河・尾張路（見附～桑名間）

今回は見附から桑名間を四回十一日で歩き繋いだものです。

この区間は家康の縁の地が多く興味ある街道歩きです。



第23回 見附～舞阪間

この回は見附宿から浜松宿、舞阪宿を2日間で訪ねる。

見附宿のはずれの中泉地区には家康が浜松城主であった頃に中泉御殿を建て鷹狩の休息所としていたところがある。

その先に宮之一色一里塚の道標がある。説明版には江戸から63里とあるが、ここは前後の関係から61里目であると考える。

街道には松並木を思わせる松が所々残っている。長森立場跡にはあかぎれ、切り傷に効く「長森こうやく」を扱っていた山田家がある。

天竜川の手前の少し上流に池田渡船場跡がある。天竜川の水量に応じて渡船場所を上、中、下流の3か所と使い分けていた昔の人の工夫の跡を知る。

川渡り あばれ天竜 道を変え

家康は浜松城主時代に天竜池田渡船許可証（渡船の専門許可、税の免除等）を出している。緊急事態に船留め等が対応できる体制を整えてい



たのだと思われる。

天竜川西岸の中野町から東海道は続く。中野町街道筋には立派な松並木があったという
掲示があるが今は松も無い。

街道右に金原明善生家がある。金原明善は明治時代に
天竜川の治水・利水事業に全財産を投入して天竜川の堤
防工事を完成させた。また、水源涵養のため天竜川上流
には杉やヒノキ約900万本を献植したという。



安間一里塚跡から馬込一里塚跡間は単調な街道歩きが続く。

一里塚辺りから浜松宿である。

東海道は大手門跡から左折するが右側には浜松城がある。

浜松城は家康が今川氏から引馬城を攻め取り拡大増築して浜松城と改め29歳から駿府
城に移る45歳までの17年間在城した。

尚、引馬城は秀吉が木下藤吉郎時代に仕えていたところである。



浜松城

浜松城の詳細はここでは割愛する。

浜松宿は本陣が6軒もあった大きな宿場であったのだが、明治
の大火、戦災ですべて消滅していて、街道筋には高札場跡、佐藤
本陣跡、杉浦本陣跡、川口本陣跡、梅屋本陣跡の標識が立っ
ているのみである。あとの2本陣は不明である。唯一浜松城前に徳川
の威光を示す五社神社と諏訪神社が目立った。五社神社は家康が
浜松に入城し秀頼誕生を祝って社殿を建立し現在地に遷座したと
いう。坂上田村麻呂が建立されたと伝わる諏訪神社は家康が社殿



五社神社

を造営、家光が現在地に遷座したという。

浜松は家康の主要関連地なので期待したのだが、全く何もなく素通りに近かった。

浜松城の北側に犀ヶ崖古戦場がある。ここは三方ヶ原合戦で敗走し浜松城に戻り夜に一
計を案じて奇襲をかけて信玄軍を追い払ったところである。詳細は割愛する。

また、浜松城側に現東照宮（旧引馬城）があるが秀吉が草履取りをしていたところであ
る。浜松城は秀吉、家康が出世したところでもあり出世城と言われている。

浜松は 家康・秀吉 縁深し

浜松宿から約2里先の舞阪宿間に二つ御堂があるが割合単調
な街道である。

二つ御堂：藤原秀衡と愛妾との建立悲話あり。

舞阪宿手前に約340本の舞阪松並木がある。昔は1420



舞阪の松並木

本もの松が植えられていたという。

舞阪宿入口となる舞阪見附跡の石垣が一部残っている。

第24回 舞阪～赤坂間

この回は舞阪宿から新居宿、白須賀宿、二川宿、吉田宿、御油宿、赤坂を三日間で訪ねる。

浜名湖を前にした舞阪宿には脇本陣「茗荷屋」が現存している。東海道の中で唯一の脇本陣遺構の建物である。(必見)

また、「今切渡船」(浜名湖を舞阪宿から新居関所・新居宿まで横断する)が特徴的である。船着き場の雁木が残っている。



昔舟 今はバスにて 道端折る



新居宿側の船着き場が新居関所で安政2年(1855)の建物が残っている。

この宿には3本陣があって疋田弥五助、飯田武兵衛、疋田八平衛の本陣跡の標示あり。

これより一里先に白須賀宿がある。



白須賀宿は当初海岸線沿いにあったが宝永4年(1707)の大地震後潮見坂上の現在地に移っている。街道の古民家はかなり取り壊されているが家並、雰囲気は残っている。

白須賀宿のはずれが遠江国と三河国の国境の小さな境川・境橋がある。

いよいよ三河にはいる。三河国の最初の宿場二川宿は商家、本陣、旅籠が並び江戸時代の雰囲気を残す宿である。

商家「駒屋」は江戸時代後期の姿に改修復元されている。



二川宿本陣は江戸後期の姿に修復されている。東海道で本来の姿で現存する2本陣のひとつである。他に草津宿の本陣がある。(必見)

本陣の隣に旅籠屋「清明屋」が修築保存されている。この建物は文化14年(1817)の建築で当時の生活が判る。

二川宿には昔の面影を残す古民家が多く、枡形や道幅も当時のままだという。

約一里先に吉田宿がある。吉田城の城下町だったが、今では東西の惣門跡が再現されているのみである。城跡は公園になっており、唯一隅櫓の鉄櫓が昭和時代に復元されてい



る。広重はここから吉田の絵を描いている。

家康と 攻防有りし 吉田城

吉田は明治になって豊橋と改名されている。

吉田宿から約2里先に御油宿があるが途中に白鳳15年（686）に創建された神社有。その境内に家康が寄進した境内八幡宮がある。

菟足神社から約一里半先に御油宿がある。

御油宿には本陣二軒、旅籠六十二軒あったが、現在は本陣の鈴木半左衛門家跡地の標示があるのみ、道幅は当時のままなのか狭い。

隣の赤坂宿まで1.7kmだったので両宿で一宿と扱われたこともあったという。



広重画にあるように賑やかに客引きもあったようだ。

御油、赤坂間には慶長9年（1604）整備された松並木がある。必見である。

松並木が切れた所から赤坂宿である。



御油宿に 見事に残る 松並木

第25回 赤坂～知立間

この回は赤坂宿から藤川宿、岡崎宿、知立を三日間で訪ねる。

赤坂宿には3本陣の一つの松平家の本陣跡の門、文化6年（1806）の建築の大旅籠「大橋屋」また、三河天領の中心地だった陣屋跡がある。



赤坂から1.5里先に間の宿本宿がある。途中の長澤地区の街並みは旧東海道の雰囲気が残っている。

間の宿本宿の法蔵寺は家康の先祖の松平氏の初代・親氏が堂宇を建

立以来松平の祈願所で、家康の父の松平廣忠公の墓有。

また、家康が幼少の頃手習いや漢籍を学んだ寺である。

家康が 手習・学びし 法蔵寺

約一里先に藤川宿がある。

藤川宿手前に山中八幡宮がある。社殿左手に鳩ヶ窟がある。

鳩ヶ窟は家康が一向一揆の信徒に追われ逃げ込んだ所で岩穴から2羽の鳩が飛び出し



「鳩がいるなら人はいないだろう」ということで追手は引き上げ命拾いしたという。家康三大危機の一つである。(他に三方ヶ原の敗戦、本能寺の変の伊賀越え)

家康が 鳩に救わる 鳩ヶ窟

藤川宿は本陣（森川家）一軒、脇本陣（橘屋大西家）一軒の小さな宿場であった。

藤川宿の入口東棒鼻跡が広重の絵を模した形で作られている。

高札場跡の標示、本陣跡に公園、西棒鼻跡に見附石垣と榜示杭がある。



西大平藩陣屋跡



岡崎城

藤川宿から約一里の所に西大平藩陣屋跡あり。

藩祖は大岡越前守だが江戸^{じょうふ}定府大名だったので西大平藩は家臣に任せたという。

約1 kmすすむと岡崎宿である。

岡崎は家康が誕生した岡崎城の城下町で家康と家康の先祖の松平家の史跡が多い。岡崎城には家康の産湯の井戸、胞衣塚^{えな}がある。岡崎城詳細は割愛する。

岡崎宿は岡崎城下町を守る二十七曲がりの街づくりに特徴がある。二十七曲がりを辿っていくと本陣（伊藤家）跡、問屋場跡、御馳走屋敷跡、籠田惣門跡松葉惣門跡に至る。

ここまでが岡崎宿。

道は外れるが岡崎城の北側に大樹寺がある。(必見)

ここは松平家・徳川将軍の家の菩提寺・松平八代と家康の廟所、歴代将軍（初代家康～十四代将軍家茂）の位牌が安置されている。位牌高さは臨終時の身長と同じという。



大樹寺

徳川と 大樹寺縁^{えにし} しかと知り

矢作川を渡り約二里先の来迎寺一里塚があるが少し北側に杜若の名所無量寿寺がある。杜若は在原業平が「かきつばた」を句頭に入れた和歌

「かきつばた きつつなれにし つましあれば はるばるきぬる たびをしぞおもふ」

で有名である。

知立には 在原業平 杜若

暫く行くと今でも450 m続く知立の松並木がある。ここで昔は馬市が開かれていた。



知立の松並木

第26回 知立～富田間

この回は知立宿から鳴海宿、宮宿、桑名宿、富田まで三日間で訪ねる。

知立（池鯉鮒）宿は本陣一軒、脇本陣一軒があった。本陣（永田家）跡、問屋場跡の標示あり。他に三河国の二の宮で近隣の産土神^{うぶすながみ}の知立神社があり境内に室町時代の多宝塔がある。5月の祭礼には5台の山車が繰り出し文楽とからくり人形の芝居が上演される。

総持寺は於萬の方（家康の次男秀康の生母）生誕の地である。

約3 km先に三河国・尾張国の境の境橋がある。

境橋 三河尾張（終わり）と 振り向き

約2 km先に桶狭間古戦場跡の公園あり。向かいの高徳院に今川義元本陣跡と桶狭間古戦場石碑がある。私がイメージしていた古戦場とは全く違っていた。

桶狭間 思い巡らし 訪ね往く

約1 km弱に間の宿有松がある。

有松は5代将軍綱吉に有松絞りの手拭いを献上したことから全国に知れた。

有松絞りで富をなしたのであろう独特の風格のある建物（服部邸、井桁屋、竹田邸、岡邸、小塚邸）が立ち並ぶ約800Mの街並みは貴重である。



約1 km先に鳴海宿がある。



鳴海宿は有松で生産された絞り製品を鳴海絞のブランドで売る商家が並んでいた。

広重の絵の鳴海にもこの家並が描かれている。しかし、その家並は現在全くない。多分有松の家並の様だったのだろう。

鳴海宿には本陣（千代倉家）1軒、脇本陣2軒があった。街道沿いには問屋場跡、高札場跡、本陣跡、誓願寺、鳴海城跡の標示があるのみ、有松と街の雰囲気が違う。

鳴海宿中心部に誓願寺があり、芭蕉の供養塔・芭蕉堂がある。

向かいの鳴海城跡あり、鳴海城は1590年に廃城となっている。



間もなく笠寺一里塚跡があり、その傍に笠覆寺がある。

笠覆寺は織田信弘と竹千代の交換地で人質交換の地という碑が建っている。交換後竹千代は今川の人質となる。

一里先に宮宿がある。

宮宿（熱田宿）は熱田神宮の門前町である。また、桑名までの七里の渡しで賑わったところで五十三次では大津、駿府に次ぐ大きな宿場であった。

宮宿には赤本陣、白本陣の二本陣、徳川家康幼時（竹千代）幽居地、七里の渡し場跡等がある。



七里の渡し跡



佐屋路道標

陸路で行く場合は佐屋路を佐屋宿まで行って揖斐川を川舟で下り桑名に至るルートがある。

熱田神宮の御神体は皇位継承の「三種の神器」の一つ、草薙の剣である。

その他熱田神宮、付近の名古屋城については割



名古屋城

愛する。

七里の渡しの桑名側は揖斐川沿いにある。桑名宿は桑名城の城下町だった。桑名城跡は公園となっている。

桑名城は本田忠勝が本格的に築城した城である。本田忠勝の孫忠刻と家康の孫千姫が結婚している。



桑名側渡し場

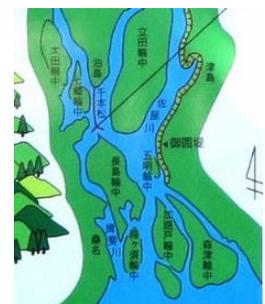
七里の渡しの上陸地に伊勢神宮の遷宮の際の一の鳥居が建っている。ここから日永追分に行き伊勢神宮に向かう街道の始点となっているからだろう。

桑名宿には本陣二軒脇本陣四軒があったようだが大塚本陣跡（現料亭船津屋）駿河屋脇本陣跡（現料亭山月）が残っている。他に春日神社、海蔵寺、十念寺がある。春日神社の青銅製の鳥居は珍しい。



海蔵寺

海蔵寺は宝暦の木曾三川（木曾川、長良川、揖斐川）の分水治水工事で死した薩摩藩家老平田^{ゆきえ}靱負以下藩士二十四名の墓がある。（治水の苦労話あり。訪ねる価値あり）



十念寺には桑名藩士^{つらあき}森陳明の墓がある。

^{つらあき}森陳明は戊辰戦争の際新政府軍に抗した責任を桑名藩主に代わり一人受けて立ち切腹したという。詳細は割愛する。

藩主たて身代り武士の^{いさぎよ}潔さ

縄生一里塚近くに小向の立場跡がある。^{おぶけ}

名物の桑名の焼き蛤として小向と東富田の茶店で売られていた。現在は現地産は少なく他から仕入れて面目を保っているという。

更に一里進むと今回のゴール富田である。

三河・尾張路の道中はほとんどが旧東海道を歩いたので昔の家並や旧家も多く東海道の雰囲気も随所に味わえた。

次回は伊勢・近江路を紹介します。

三河・尾張路（見附～桑名）記 録

期間	2018/2～2018/5	延日数	11日
東海道五十三次	約150km	実歩行距離	約167km
歩行歩数	約24万歩	撮影写真枚数	1,445枚
纏めたPPT	408ページ	製本ページ	204ページ